

行けばわかるだろう

七月二十日 月曜日 行けばわかるだろう

起床八時半。

おばあちゃんはいない。

本町のおばとこに行ったきりだ。

おば、大丈夫だろうか。

母がごはんの支度している。

ごはんまだしばらく、かかりそう。

洗面後、部屋に戻り、原稿構成に頭をひねる。

やっているうちに、考えが変わってくる。

あっち、こっち、飛ぶ。

僕は今日記をつけているが、

それをテーマにしようかとも思った。

しかし、どんどん、変わってくる。

要するに「その心は？」と自分に聞きただすと、

いろいろ説明が頭に浮かぶが、結局、

「子供の無心、純粹さを、

大人の世界へ持ってゆきたい。」

に変わった。

結局は、どうして今、自分が日記をつけているかに戻る。

朝食と昼食を兼ねたような時間のめしを食べた。

そばで、母が僕の食事の給仕をしてくれた。